

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

◇飽くなき探求心に敬服

心痛む事件の連続に社会の病
理を強く感じていたとき、日本
人2人のノーベル賞受賞のビツ
グニュースが届きました。ノー
ベル生理学・医学賞の大村 智
特別荣誉教授とノーベル物理学
賞の梶田隆章教授の飽くなき探
求心と努力に敬服し、お二人の
誠実さと深い人間愛に心打たれ
ました。人類を救い貢献する研
究と成果は、明日を生きる子供
達に無類の夢と感動を与えてい
ただいたと考えます。



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

新たな制度設計に向けて
—業務の総点検に期待する—

◇支部こそ本会の屋台骨

今年も43支部の総会に本部役
員が手分けして出席させていた
できました。支部総会は、退職
校長会の屋台骨であり、生い立
ちや地域性を踏まえた特色ある
運営がなされ、老・中・青のバ
ランスある編成と結束力で運営
されています。「支部なくして
本部なし」を基本に、上意下達
の運営を改め、今まで以上に本
部と支部との一体化と緊密化に
心掛けます。

◇新たな制度設計に向けて

総会でお約束した通り、多年

にわたる組織の制度疲労や事業
内容等を総点検し、これからの
本会の組織の在り方について具
体的な制度設計の検討に入りま
す。9月16日(水)に発足した
「業務改善・基金検討委員会」は、
会長の諮問に応え、検討結果の
答申をしていただきます。本会
の姿を新たな形にさせていただく
ための委員会への期待は大きい
ものがあります。

◇期待される活動の成果

都の人材バンク受託事業の第
一回人材バンク連絡会が6月17
日(水)都庁内で開催され、本会

新たな制度設計に向けて
—業務の総点検に期待する—

会員53名がアドバイザーとして
東京都教育長より委嘱されまし
た。現在、全都10地区と18大学で
アドバイザーによる普及・広報
活動が精力的に行われています。
また、二回の人材バンク登録者
対象講座が教職員研修センター
で開催されました。これらの業
務を遂行するにあたり、経験豊
富な本会会員への期待は年々高
まっています。

◇刷新されるHPPの一読を

9月1日付で新しく本会の
「ホームページ運用規定」を策定
いたしました。この規定は、H

主な記事

- P1 巻頭言
- P2 人材バンク受託事業報告
- P4 五団体との教育懇談会報告
- P6 業務改善・基金検討委
員会報告
- P7 第2回会員研修会案内
- P8 支部だより(北多摩北・葛飾・町田)
- P10 本会への入会案内
- P11 新入会員の声
- P12 東京新発見散歩
- P13 高齢者叙勲受章会員
湯島の動静表
—本部の活動報告—
- P14 写真クラブ活動報告
- P15 応募コーナー
新年懇親会のお知らせ
- P16 物故者・編集後記

Pの公開に関する必要条項を定
め、会員への適切な情報提供と
円滑で公正・公平な運用を図る
ために決めました。法令や情報
の倫理、責任の所在も明確にい
たしました。会員の皆様もHPP
を有効活用していただければ幸
いです。尚、HPPは、まもなく
刷新される予定です。
おわりに、健康長寿の遺伝子
や薬は見つかっていないようで
す。しかし、80歳を超え、年を
重ねると幸せ感は自然と増すよ
うです。皆様が新しい生き方を
模索することを期待しておりま
す。



演習 (学習1)

を演習会場に誘導し、会場で受講生の席次を指示した。また、総合司会を務め、進行時間の流れに気を配り、終了宣言をした。

・コーディネーターは、ワークショップの進行役を担当した。進行役では公平な時間配分に努め、相互に感想を述べ合う雰囲気をつくった。また、体験談の助言を行い、受講生を導いた。

・助言者は、受講者の自己紹介



演習 (部活動)

から講座参加の目的、動機を把握し、ボランティア経験の有無を確認した上で体験談を話し助言した。具体的な体験談を聞くことで、受講者は、ボランティア活動への認識を深めた。

・受講生は、人生経験豊かな方や教員志望の方々等で、講座を受講した感想について自分に照らして、積極的に発言していた。



演習 (学習と部活動)

4. 受講者のアンケートから

◇「講座に参加しての回答」

・ほとんどの参加者が「役に立った」と回答。この講座実施を高く評価していた。

◇「研修に加えてほしい内容の回答」

ほとんどの参加者が「加えてほしい内容がある」と回答。その主な項目は、

① 教育課題とその対応策【体罰、いじめ】

② 保護者・地域の実態及び

その対応について

③ ボランティアの体験談

④ 現在の教育課題への対応策、だった。

◇講座を受けての感想から

大変よい講義だったとの感想が多かった。このような基本的研修は、ボランティアの必修にするべきだとの意見が集中した。

・グループ別での個々の先生方のお話が、とてもためになった。また、講義の中の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のどの段階でも子供への温かいまなざしを私も見習いたいと思った。

※尚、第二回登録者対象講座は、去る、九月二十六日(土)に開催され、無事終了した。



「人材バンク受託事業運営特別委員会報告」 第一回 人材バンク登録者対象 講座が無事終了

本年度、東京都教育庁から本会に受託された人材バンク事業の内、第一回人材バンク登録者対象講座についての経過概要を報告する。

尚、この講座は、人材バンク受託事業特別委員会が総力を挙げて、周到な準備を行い、都人事部と協働して運営に当たった。

1. 趣旨

この事業は、都の人材バンク登録者を対象として、学校でボランティア活動を行うに当たり、ボランティアに必要となる知識や学校での勤め方等を付与し、登録者の資質の向上を図るための講座として開催された。

2. 講座の開催

- ・日時 七月二十五日(土)
- ・会場 教職員研修センター

3. 講座の内容

◇講義Ⅰ

・全体会形式で行われ、主催者側の東京都教育庁人事部の挨拶に続き、人材バンク事業の概要並びに、教育庁人材バンクガイドブックによる説明、テキスト等の資料紹介が行われた。

◇講義Ⅱ

引き続き、講義形式により、

① 学校における教育活動の心得

② 児童・生徒への接し方についての講義が行われた。

講義は、小・中・高・特別支援の四校種別で都退職校長会会員が講師を担当した。

◇講義Ⅱの配慮事項

・講義内容の流れに沿って受講生が記録できる研修ノートを用意した。



全体会での講義

本会が作成し、受講生に配布することで効果的学習への配慮に努めた。

・四十五分の講義は、パワーポイントを利用し、映像を通して分かりやすい説明をした。

・さらに、受講生を4グループに分け、課題別演習を実施。受講生の状況もよく分かり、実態把握に役立った。また、受講生が熱心に講座に取り組み態度がよく伝わってきた。

◇グループ別演習の状況

・グループ分けは、学習1、学習2、部活動、学習と部活動の4部門とし、別々の会場を用意した。

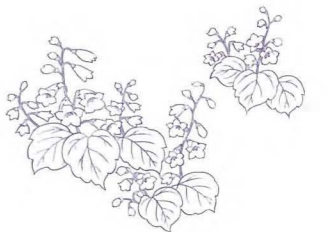
・ワークショップの内容は、次の流れで進められた。

- ① 自己紹介(志望動機等)
- ② 講義を聞いての感想等含め協議
- ③ 助言者の体験談を聞く
- ④ 受講した感想の意見交換
- ⑤ 受講した感想をアンケートに記入する時間の確保

・ワークショップは、一時間十分で設定、協議時間を充分取るよう努めた。

◇演習の状況について

・グループリーダーが、受講生



五団体との教育懇談会報告 —さらなる連携を誓った意義ある会合—

今年度の五団体（公立園長・校長会等）代表の方々と本部役員との「教育懇談会」は、平成27年8月29日（土）、本会の事務局が入っている公退連ビルの3階会議室で、宇津木 順一副会長の司会により開催された。

以下に、校種別代表者の発表内容の概要を報告する。尚、都立特別支援学校校長会代表は都合により、欠席された。

◇ 幼稚園

東京都国公立幼稚園・こども園長会副会長 田代恵美子先生の報告。

*今年度は十園が休園中で、現在百八十四園である。また、園児数は一万四千四百七十三名が在籍。特に、3歳児が増加傾向にある。

*二十代の教員が全体の六十一

%を占め、一段と若返っている。若い教員の資質・能力の向上が重要な課題である。

*特別支援を必要とする幼児は千六名で、昨年より増加している。

*管理職受験者、特に副園長受験者の減少が喫緊の課題である。

*関東甲信越国公立幼稚園・こども園長研究協議会（平成二十八年東京で開催）に向け準備中、「幼児教育の本質を伝える園長の役割」響く・伝わる・つながる情報発信の工夫」をテーマに研究を深めていく。

*幼児教育に関する国の動きとしては、幼稚園教育要領の改訂、アクティブ・ラーニングの考え方、幼児教育の無償化・義務教育化の検討等がある。

◇ 小学校

東京都公立小学校校長会副会長 種村明頼先生の報告。

*副校長の受験者が減少している。

*女性の管理職を増やしたい。

*初任者二千名以上の採用が行われる模様。

*4年前から体育・理科など任用前研修を勧めてきた。

*算数の少人数化（習熟度別指導）について都教委も本腰を入れてきているようだ。

*小学校も二十八年度に関東ブロック研修会があるのでその準備を進めている。

*学習指導要領改訂（平成二十八年度以降）への取り組みがなされている。

*外国語（英語）の対策（5、6年、週に2回）も始めているが、週に二十八コマの範囲の中で実施するので、どの教科を減らすか、なかなか難しい。

◇ 中学校

東京都中学校校長会副会長 松丸明美先生の報告。

*各教育団体とは年に1、2回は連絡会を行っている。特に、都教委人事部・指導部とは年に数回話し合いを行っている。

*現在の中学校教育の重要課題として以下4点について説明したい。

① 生徒指導での「いじめ、自殺、不登校」などが、全国的に問題になっている。大阪で起こった中1男女殺害事件など、悲惨な事件の再発防止には学校・家庭・地域社会が本気になって取り組む必要がある。参考までに（携帯電話の無料通話など五十八パーセントの生徒が日常的に使用している実態がある）

② 教育編成上の問題で、発達障害の生徒の指導や中1ギャップ対策で教員の加配等、また、習熟度別指導（英語）の取り組みなどを行っている。

③ 管理職不足の問題で、近い内に副校長が配置できない学校も出るのでないかと心配される。

また、女性学校長は六百五十校中四十六校（七・五パーセント）と低迷状態で、今後の課題である。

④ 勤務規程の問題であるが、体罰事故を起こす教員は五十代が多い。また、部活動での体罰事故は三十代の教員が多い。なお、管理職自身が事故を起こし教職員や生徒に示しがつかなくなっている学校もある。管理職自身が強い規範意識を持たねばならない。

六十八名の内、高校進学は九八・二%都内公立高校進学（全日制）は五五・二%。

② 全日制の中退率十二・九%。

③ 英語教育の充実がなされている。特に、英語科教員の海外派遣研修は平成二十六年度から開始。約3か月間、英語圏の大学等へ（二十七年は百四十人）派遣。また、JETプログラムによる外国人英語指導者の配置が二百人に拡大された。さらに、次世代リーダーの育成では、生徒を1年間現地高校に留学させている。オーストラリア、アメリカ合衆国にそれぞれ百人ずつ派遣。生徒の努力に報いる施策が展開されている。

④ 人間としての在り方、生き方に関する教材「人間と社会（仮称）」を平成二十八年度から全面实施される。

⑤ 学習指導要領の改訂については「公民科」と「人間と社会」の内容が重なる部分が多



当日の出席者

い。また、「地理・歴史」と「日本史必修」との関係も研究課題である。今後は、選挙権に関する授業やアクティブ・ラーニングに取り組む授業を行う。

以上、各校種代表からの今日的な課題が報告され、日々のご苦労と課題解決への並々ならぬ意欲が会場に流れた。終了後、和やかな懇親の会を持ち、散会した。

資料

年度別 会員入会状況 平成27年8月31日現在

| 年度 | 会員数 | 入会率 | 加入数 | 逝去 | 退会 | 年度 | 会員数 | 入会率 | 加入数 | 逝去 | 退会 |
|----|-------|-------|-----|-----|-----|----|-------|-------|-----|-----|-----|
| 13 | 5,759 | 46.5% | 106 | 190 | 61 | 21 | 4,510 | 31.8% | 114 | 166 | 89 |
| 14 | 5,596 | 51.2% | 109 | 179 | 100 | 22 | 4,371 | 35.8% | 115 | 183 | |
| 15 | 5,427 | 48.3% | 114 | 212 | 79 | 23 | 4,149 | 32.5% | 101 | 182 | |
| 16 | 5,296 | 42.3% | 116 | 172 | 80 | 24 | 3,973 | 30.1% | 88 | 166 | 75 |
| 17 | 5,162 | 49.0% | 125 | 169 | 80 | 25 | 3,860 | 39.0% | 105 | 143 | 82 |
| 18 | 4,991 | 42.7% | 102 | 186 | 93 | 26 | 3,696 | 39.6% | 109 | 174 | 125 |
| 19 | 4,798 | 36.6% | 102 | 159 | 80 | 27 | 3,495 | 22.5% | 86 | 69 | 43 |
| 20 | 4,672 | 34.0% | 131 | 160 | 83 | 28 | | | | | |

生き生き人生を目指して 実技研修 水墨画を描く

平成27年度 『第2回 会員研修会』 案内

東京都退職校長会 生涯学習部

平成27年度 第2回『会員研修会』を下記の要項で開催いたします。
初心者の方でも90分で2枚の作品が完成するという、取組み易い実技研修を計画いたしましたので、気軽にご参加下さるようご案内いたします。

記

- ◎ 期 日 平成27年11月18日(水)
- ◎ 会 場 中野ZEROホール 西館 JR中野駅南口徒歩8分
- ◎ 時 程 受付 午後1時00分～1時30分
研修会(水墨画) 午後1時30分～4時00分
-色紙2枚の作品を描く-
- ◎ 講 師 絵画クラブ委員長 東條 康永先生
- ◎ 費 用 500円(色紙・掛け軸(たとう)代)
- ◎ 参加希望の方は、FAXで事務局へ 03-5814-5615
宛先 生涯学習部長 齋藤 徳蔵

- ※① 初めての方は手ぶらでご参加ください。
- ② 係が用意してあるもの
・水墨画用墨汁青 ・水入れ ・小皿 ・手拭 ・鉛筆B6
・消しゴム ・小筆 ・中筆
- ③ 自宅にあれば御持参ください
・30センチメートル定規や上記②で挙げたもの
- ④ 経験者の方は、自前のセットをご持参ください。
- ⑤ 専門の小筆と面相筆中筆、ご希望があれば、1本600円でお分けします。
- ⑥ ご希望があれば、完成した作品を、新年会会場に掲示すること可です。



業務改善・基金 検討委員会発足 委員長 宇津木順一

「第一回業務改善・基金検討委員会」が九月十六日に開催され、委員会が開始しました。本委員会は、本年度総会で承認された事業計画の活動方針に基づいて設置されたものです。活動方針では、「本年は、本会が七十年目に向けた事業を具体化する年である。これまでの事業全体を見直し、機構改革を視野に、新時代に向けた事業を推進する年度とする。特に、本会の目的を達成するため、会員数に見合った事業組織や内容等を検証し、改善を図る。(具体的には)課題検討委員会を設置し、組織、事業内容、基金等の総合的な見直しに着手する」と示されています。

十五日までの間に会長の諮問に
応えることになっていきます。

委員長 宇津木順一(副会長)

委員 安達 勉(副会長)
今井 重夫(監事)
武藤 昇(参与)
大橋 俊郎(評議員)
井口 茂(支部長)
桐谷 澄男(支部長)
三辻 陽夫(事務局長)

第一回委員会の冒頭、多田丈夫会長から、本委員会設置の基本的な考え方及び主たる諮問事項等について詳しく説明があり、委員会への強い期待と改善の決意が示されました。

多田丈夫会長が示した基本的な考え方は次の通りです。「本会は、平成二十五年度に創立六十周年記念式典を挙行し、これまでの歴史の重みと輝かしい伝統を祝し、未来に続く組織であることを誓い、絆を強めた。この間、組織の骨格をなす『綱領の制定』や絆を強める『会歌の誕生』という足跡を残した。これらに魂を入れると同時に、会員は、本会が新しい時代にふさわしい創造的な組織に生まれ変わること期待している。特に、本年度の事業計画の具体的方針の一つに『課題検討委員会を設置し、組織、事業内容、基金等の総合的な見直しに着手する』と示され、承認されている。ここに七十年を視野に業務全体を見直す組織を設置することにした。

本会は会員からの信頼ある組織として位置づけられているが、組織面、業務面、財政面等において全て了とは言えない部分もある。そこで、業務及び基金等に目を向け、広く会員の英知を集めて良い面、悪い面、改善しなければならぬ面を総点検し、会長の諮問に添えていただくことにした。委員会の答申を受けて、本部は、総力を挙げて改善への第一歩を踏む覚悟である」

また主たる諮問事項として、①会則を含む業務の改善について、②会員減少に伴う支部組織の在り方について、③基金と今後の用途について、④その他緊急を要する事項、が提示された。これを受けて、本委員会では、毎月委員会を開催し、諮問事項について順次検討し、諮問に添えていくことを確認しました。結論を得たところで、答申として提出したいと考えています。

なお、委員会の検討内容については、会報、支部長会等で、会員の皆さまにお伝えしていきたいと考えています。

委員一同、これからの本会の事業活動、業務運営の見直しに関わる大きな役割を担うこととして、使命の重大さを考え、精力的に検討してまいります。

会員の皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

支部だより

会の活性化を図る

日帰り見学会を終えて

北多摩北支部長 楠本善之助

ほぼ一年様々な活動の在り方を検討しました。担当・役員で実地踏査を重ね、去る十月六日(火)に国営昭和記念公園(立川市)の日帰り見学・研修会を行いました。

この公園は昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として、現在及び将来を担う国民が自然環境の中で健全な心身を育み、英知を養う場として、立川市・昭島市の両市に跨る旧立川基地跡地のうち百八十haを記念公園として設立されました。

本支部は、先輩の努力によって、これまで、埼玉県狭山市営の智光山荘で宿泊研修を行ってきました。研修と共に、親睦を深め合う貴重な事業でした。しかし、一方では、会員の高齢化や会員数の減少のため、年々研修会への参加者が減少する事情があつて、長い歴史と伝統ある先輩の皆様には断ちがたい心情を持たれたことと思います。こ

れから本会の活動を更に充実する一つの方法として、日帰り研修で、会員の心身の負担にならないような見学・研修会を企画してみました。それが、今回の日帰り見学・研修会です。

古来から、天高く馬肥える秋といわれています。正しく、空は青く高く澄み、地にはコスモスの花を初めとして、百花繚乱木々は紅葉を初め、絶好の見学・研修日和に恵まれた一日となりました。

役員・担当が心掛けたことは、単なる公園で気晴らしの、物見遊山観光の一日ということにならない、研修会の名にふさわしい一日となるようにするということでした。

幸いに、公園関係の専門家に恵まれました。そのことが、この度の研修会の成功につながったと思います。

その公園関係の専門家の一人の方が鈴木一正氏、もう一人の方が上田良就氏です。

鈴木一正氏は前東京都退職校長会文京支部長で、都公園協会の役員(カメラマン)です。国

営昭和記念公園関係の資料、特に、見学・研修コースのポイントの解説資料を作成され、当日は、上田氏と共に案内役を下さいました。上田氏は都公園協合理事長で、緑と水のスペースリスト、樹木・草花等の専門家です。お二人の現地解説案内で西立川口ゲート(さざなみ公園)から出発して、花木園・ハーブ園、そして、みんなの原っぱ(コスモスの丘等)を経て、日本庭園(観楓亭)で憩い、上田氏の解説で自然や環境の大切さ、特に、環境の保全に果たす樹木の役割、紅葉の仕組み、日本の四季等を学びました。

近くで懇親会を開き、貴重な一日だった思いを語り合い、解散しました。
「友良し 酒良し 一日良し 一日良ければ 命長し」



講師 上田良就氏の説明 (さざなみ公園)



研修参加者(西立川口ゲート前)



観楓亭での憩い

「クラブ活動等で会員間の交流の場を」

葛飾支部長 佐藤 晴雄

支部の諸活動を活性化し、会の運営を充実させるためには、支部構成員間の交流を盛んにしていくことが大切だと思ふ。

葛飾支部はA会員とB会員を合わせ百八十名在籍している。こ、数年の定期総会・懇親会の出席率は、会員数の三十%程度で、まずまずの出席率と思うが、年に一度の総会で顔が合うだけでは、お互いがよく理解し合い交流を深め、会の運営や諸事業を充実させるには、十分であるはずがない。

どの支部でもいろいろと工夫されていると思うが、葛飾でも以前からクラブ活動を通して会員間の交流の場としてきた。

また、クラブ活動とは別に全会員交流の場として『ぶらり散歩』を実施している。目的地は都内や近県の史跡等を巡り交流

の場としている。

クラブ活動は、かなり長い間囲碁クラブ・ゲートボールクラブ・ゴルフクラブ・写真クラブ・古文書クラブの五クラブの活動が続いていたが、メンバーが固定的になつているクラブでは、メンバーの高齢化などによりそのメンバーが一人二人と減少してきて、その活動を維持できなくなり解散したり、休部し

たりのクラブが出てきた。まず初めはゲートボールクラブが廃部となり三年後には写真クラブが解散し、その翌年に古文書クラブの休部となった。本年度活動しているのは、囲碁クラブとゴルフクラブだけの活動となつてしまった。

ゴルフクラブは、毎年入部者があり、年齢層の中が広く、人数も多いので、月例会を実施して交流の場が確保されている。支部の諸活動を活性化させ支

支部活動の一端

町田支部長 沖倉 啓壽

本年度、支部長を引き継いでから早くも四ヶ月が経過した。五月の総会では、それぞれの事業担当から昨年度の報告、そして予算も含めた今年度の計画が示され承認を得た。支部の活動も順調に動き出しているこの時期に、改めて、支部発足のルーツと、恒例の事業の一部を紹介したい。

まず、町田支部の成り立ちである。一昨年の支部総会の席上或る会員から「都退職校長会創立六十周年を迎えるにあたり、町田も創立五十周年になる筈であるがどうするか」と言うご意見が出た。詳細は略すが、町田支部だより・都会報・都周年記念誌の年表・記録等々照らし合わせて見ると数字や支部名、設立の時期(当時、都下支部はいくつかの地域をまとめた部名としていた)等、整合性に

都退職校長会への ご入会のお勧め

本会の重要な課題の一つが会員の増強です。

本部でも「一人が一人獲得キャンペーン」などの勧誘の努力をしています。

ご退職された方はもとより、再任用校長、採用前講座の講師の方等で未加入の方に対して声をかけて入会勧誘をしています。また、支部長会でも退会者を出さない工夫について検討をしてきました。

今年度も本会は会員の親睦と互助を深め、生涯学習の充実を図ると共に都の教育を支援することを目的としています。

本会の諸行事や各支部・クラブ等の活動に参加していただきたいと思っております。

そのためにも、一人でも多くの会員のお力が必要です。本会の目的や活動をご理解いただき、

入会の上お力を發揮していただきたいと願っております。
本会の情報入手、入会の手続き等については次の通りです。

- ① 本会のHPにより、事業の案内、クラブ活動の現状、支部の活動などの紹介をいたしますので、ご覧ください。
 - ② 一月には園長・校長宛てに三月には退職予定園長・校長宛てに会報をお届けします。
 - ③ 二月以降、皆さまの居住地の各支部ごとに、本会の会則・沿革、会長よりの「入会のお誘い」、入会申込書等をお届けいたしますので、ご入会をお待ちしています。
- 年度末を控え、ご多忙のことと存じます。
- 園長・校長先生方の一層のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



新入会員の声

これからもお世話になります

文京支部 荒木 尚子

文京区の区立幼稚園で教員としてのスタートを切り、駕籠町、青柳、第二、本駒込、汐見の各園で、学級担任、主任として多くの子どもたちや保護者の皆様とかかわる楽しく有意義な二十一年間を過ごすことができました。駕籠町時代の修了生はもう立派な社会人で、高校で教鞭をとっている人もいます。

平成十年からは管理職として、墨田区に赴任し、立花幼稚園で教頭となり、四年間を、緑幼稚園で園長として、十三年間を過ごしてきました。管理職になり、保護者や地域の方々はもちろんのこと、他校種の先生方や区行政の方々との交流も増え、人と人とのつながりを広げ深めることができました。退職校長会の皆様とも、東京都の園長会の様々な事業の中でのかわりもあり、いろいろとお世話になりました。

ある会員相互の親睦・研鑽・交流を図る機会として計画され、平成十五年、当時の支部長から「会員の豊かな素養を一堂に展開しようではないか」との提案が有り実現したものである。以来、今年第十二回目にあたり十一月十日(火)～十一月十五日(日)の六日間、開催・展示される。会場も「町田市立国際版画美術館」で町田市芹が谷公園の中にある。世界でも数少ない版画専門美術館であり、市の文化、芸術の根拠とも言われている。自然豊かな公園で、作品展・美術館後の散策路もお楽しみいただける環境が整っている。

◆ 出品作品例 ◆

- ◇ 絵画 ◇ 書道 ◇ 写真 ◇ 俳句・短歌・詩 ◇ 手芸・工芸 ◇ 陶芸 ◇ 立体作品 ◇ 水石・盆栽・生け花 ◇ 紀行文・著作 ◇ その他

会期中、他支部の方、市教委の方、多数の皆様のご来場に厚く感謝しお礼申し上げます次第である。

この三月に定年退職を迎え、一区切りがついた時点で、本会の新会員として仲間入りをさせていだいたこと感謝いたします。退職後も、益々、お元気で活躍の皆様には、本当に敬服いたします。

還暦を迎えた時に、幼稚園の誕生会で「園長先生は、大人のゼロ歳になったので、赤いちゃんちゃんこを着ているのよ」と子どもたちに話しました。暦が一回りして、また違った新しい生活が始まるというのも新鮮で、希望に満ちるものだと思います。過ぎてきた教職人生を振り返り、多くの人々に支えられ助けられたことに感謝し、何千何万にも及ぶ人々とのつながりを喜び、さらにこれからも自分自身の財産として人とのつながりの輪を広げていきたいと思っております。

四月より、帝京平成大学に勤務しまして、これから幼稚園の先生や保育士になろうとしている学生を相手に日々奮闘しています。長年、幼児と暮らしてきましたが、大学生とのかわりもとても楽しいものです。半年

感謝の気持ちで

千葉南部支部 羽生恵美子

平成二十七年三月に退職し現在再任用校長・園長として継続して江東区立辰巳小学校、辰巳幼稚園に勤務できたことに感謝しています。退職をしても今までと同じ学校で子供たちと関わり地域・保護者の信頼のもとで学校経営を推進していきたいと思っております。

退職後、校内研究などの講師として指導していただいていた桐谷澄男先生から東京都退職校長会・千葉南部支部への入会に誘っていただきました。時間ができてからの参加で大丈夫ということで入会させていただきました。豊かな体験の中からいろいろな学びや交友を楽しみにがんばって仕事を続けていきたいと思えます。

三十八年間無事教員生活が送

れたのも家族の協力があったこそだといつも感じていました。二十三歳で結婚し四街道市みそらに住みました。百分もかかる通勤で勤務ができるか不安でした。でも、主人や両親、近所の方の協力があり最後までやり遂げることができました。感謝の気持ちから家族旅行ができたらと娘に話をしました。シルバークウイクに皆が休みで行けることになり夢が叶いました。沖縄に三泊四日で主人と娘夫婦、孫二人の全員六人で楽しむことができました。これからの第二の人生の生きがいを感じた最高の日々でした。

会員の仲間としてどうぞよろしく願っています。沖縄の海で孫と一緒に撮った写真です。

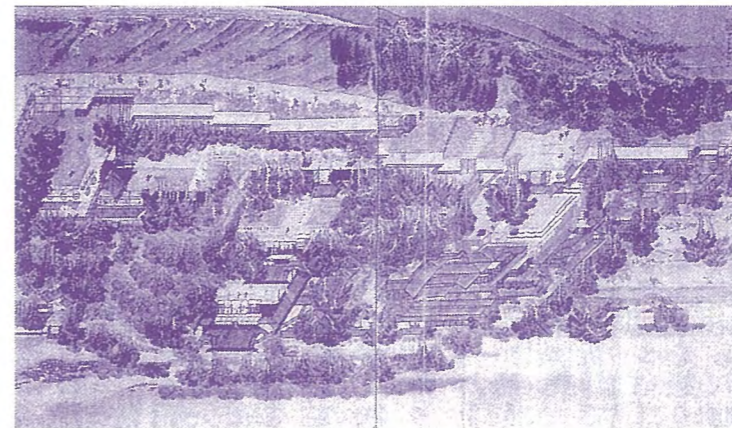


生涯学習部会研修
第二回 東京新発見散歩
 生涯学習副部長 田中弘志

八月十一日(水)夏の真つ盛り大変暑い日でしたが、十時、JRお茶の水駅聖橋口に集合。大学のルート湯島聖堂から神田神社(神田明神)を見学した。講師は、財団法人斯文会岩城公子学芸員と緒方良子中野支部長の二氏。

見学場所
 一・湯島聖堂 ここは一六九〇年徳川五代將軍綱吉の命により上野にあった儒学者林家の私塾が移された。一七九七年この私塾は組織改編と拡張工事が行われ幕府直轄の昌平坂学問所が開設され学問教育の総本山となる。明治のはじめ文部省、東京国立博物館の前身もここに置かれ、近代教育の発祥の地となる。大正十一年、国の史跡に指定される。

聖橋門、入徳門(聖堂内唯一の木造建造物)、斯文会館、孔



松井雪鮮・画(江戸後期)

湯島聖堂図

子銅像(中華民国台北市ライオンズ・クラブからの寄贈。丈高四・五七米、重量約一・五噸)、楷樹(別名孔子木)、手水舎、杏壇門(孔子が弟子たちに教授したところ)、前庭、大成殿(殿内中央の厨子に孔子像。左右に顔子・曾子・子思・孟子の四賢像、彩笈器を展示)、「鬼犹頭」「鬼龍子」

二・神田神社 はじめ江戸城大手門近くにあったが、一五九〇年徳川家康が江戸に入り、大規模な城下造成に伴い一六〇三年駿河台に遷され、さらに一六一六年現在地に江戸城の良鬼門の守護神となる。江戸時代から「神田明神」「明神様」と呼ばれ親しまれてきたが、明治維新後「神田神社」として改称。天平二年(七三〇年)建立の古社。現在の権現造りの社殿は、昭和九年建立のもの。祭神は、三柱本殿に祀られている。

一柱目「だいきく様」正式名「大己貴命(おこなむちのみこと)」創建七三〇年。国土経営、病氣平癒、夫婦和合、縁結びの神として崇敬された死後の世界を守護する神。別名大国主命。二柱目「えびす様」正式名「少彦名命(すくなひこなのみこと)」日本で最初に生まれた神様。高皇彦靈神(たかみむすびのかみ)の子。手のひらにのるほどの小さな身体、知恵に優



集合写真

見学後、門前の「そば処」で皆で昼食をとり二時頃解散した。

高齢者叙勲について

高齢者叙勲(米寿叙勲)について、改めてお知らせします。近年、各区市町村の教育委員会が本人からの申請がなくても都道府県教育委員会に申請する仕組みになっています。しかし①叙勲候補者リストへ候補者の登録が漏れていた、②登録はされていたが推薦漏れ、③候補リストに登録はされていたが、候補者が死亡との誤認による推薦漏れ、④八十八歳の間であればいつでも推薦が可能なものとの認識等々による推薦漏れも考えられる。八十七歳にならたら該当者は遺漏のないよう、改めて確認をお願いしたい。

【高齢者叙勲の概要】
 ①春秋叙勲で叙勲されていない功労者のうち、満八十八歳になつた者を「春秋叙勲」とは別に叙勲するものである。
 ②内閣総理大臣決議により毎月末の閣議で決定。
 ③翌月一日付けをもって発令。
 ④発令日(一日)迄に八十八歳となる者を対象とする。

【留意事項】
 ①叙勲希望者は、満八十八歳の誕生日の六ヶ月前までに最終勤務校か当該区市町村教育委員会の庶務課に相談してください。
 ②提出期限を過ぎた場合は叙勲の対象とならないばかりか、以後は「死亡叙勲」の対象からも外れます。

高齢者叙勲受章会員

平成27年10月5日までに支部より届出のあった方々

瑞宝双光章

計6名(敬称略)

加藤 れい(杉 並)

宇根 忠廣(武蔵野・三鷹)

杉本 忠太郎(北多摩中)

太田 昭吉(狛 江)

村上 稔(埼 玉)

梅沢 公夫(埼 玉)

湯島の動静表

―本部の活動報告―

| 8月 | |
|--------|---------------------|
| 3日(月) | 全連退副会長会 |
| 4日(火) | 福利厚生部会 |
| 5日(水) | 正副会長会 |
| 10日(月) | 見学会(生涯学習部) |
| 14日(金) | 短歌クラブ |
| 17日(月) | 企画委員会 |
| 25日(火) | 正副会長会 |
| 26日(水) | 会計部会・会報部会 |
| 29日(水) | 五団体・教育懇談会 |
| 9月 | |
| 1日(火) | 福利厚生部会 |
| 4日(金) | 人材バンク運営委員会 |
| 7日(月) | 生涯学習部会 クラブ委員長会 |
| 9日(水) | 総務部会 |
| 11日(金) | 短歌クラブ |
| 14日(月) | 企画委員会 顧問・参与会 |
| 16日(水) | 第一回業務改善・基金 検討委員会 |

| 26日(土) | 第二回人材バンク 登録者・研修講座 会計部会 |
|--------|------------------------------|
| 28日(月) | 正副会長会 |
| 30日(水) | 会報部会 |
| 10月 | |
| 5日(月) | 生涯学習部会 |
| 6日(火) | 福利厚生部会 |
| 7日(水) | 企画委員会 会報部会 |
| 9日(金) | 第一回採用前研修運 営委員会 短歌クラブ |
| 14日(水) | 第一回ブロック長会 会報部会 |
| 19日(月) | 都教職員物故者追悼式 (都・多磨霊園) |
| 20日(火) | 第二回業務改善・基 金検討委員会 |
| 21日(水) | 会計部会 |
| 22日(木) | 全連退関東ブロ大会 (水戸) |
| 23日(金) | 一泊二日 |
| 26日(月) | 第二回支部長会 |

クラブ情報(写真)
パチリの世界
 写真クラブ委員長
 小阪 順一



昭和五十年に発足した「東京都退職校長会 写真クラブ」だが、私たち会員仲間では、この呼び名よりも(TKC)の呼び方が方が馴染みである。

本クラブは目的として「写真を通して会員相互の親睦と互助を深め、併せてよりよい写真を目指し、撮影技術の向上に努める」をかけた、より組織的な活動を目指し今日に至っている。

この目的を達成するために、三つの部を設け活動している。

研究部
 写真展出品候補等の写真を題材にして「自評会」「合評会」等を開催し、会員の撮影技術の向上をはかっている。

撮影会の折りには、主対象物の撮り方の注意事項等の説明や参加会員の「撮る気」を喚起するよう、事前に撮影した作品の例示等も時として行う。

撮影部
 年間八回の撮影会を計画し、会員が、各地の行事や季節の移ろい等にも目を向け、楽しい写真生活を送れるように工夫を凝らしている。

今年、宿泊を兼ねて長野県安曇野市にて、北アルプスの常念岳や双体道祖神を青空と真っ白な綿のような雲をとらえた写真撮影を楽しむ機会があった。

作品展部
 年間二回開催する写真展の統括をする。なかのZEROホールを会場としているが、会場確保のために、申し込み用のコンピュータ入力から始まり、展示順の割付け、出品写真の題名一覧の作成、搬入時や搬出時の準備等々の作業を行っている。

役員会
 三つの部の調整を兼ねながら本クラブの活動の強力な推進役を果たしている。

会員が減少しつつある都退職校長会の各クラブの共通の課題は、活動を活性化するための活動費の確保である。収入減は、諸活動を行う上でいろいろと支障をきたしている。

写真クラブでは、講師による講評の会を長年持ってきたが、主に財政的な理由から、この会も四年前とだえたままになっていった。高齢化による退会者数の増加や新会員入会の減少により会員の数は減る一方だが、並々ならぬ努力により、今年十月に講師講評の会を持つことができた。

撮影した作品は、自己評価だけでなく、よりよい方向を求めて互いに研鑽しあうが、それだ

けでなく専門家による助言が大きな励みになることが多い。講師の暖かい励ましにより次の撮影が楽しくなり、作品の充実により、さらなる飛躍へとつながっていく好循環を期待したい。

写真展の会場は「なかのZEROホール」を使用しているが便利な場所であり、比較的廉価なので、会場予約の競争率が高く、今後も年間二回の会場確保ができるか難しい問題を抱えている。

今年は、会場確保ができ、第75回展を五月中旬に、第76回展は、十月初旬に終了することができた。

クラブ発足から約四十年。ほぼ年間二回ずつの写真展開催の努力を続けてきた諸先輩の奮闘には頭がさがる。伝統の重み層の充実と発展を願って活動を続けていきたい。

応募コーナー

短歌

露ふふむ アカシアの花 手折らばや
 きみが手の上には 銀のたま (追憶)

出してよと 日がな一日 鳴けるポチ
 その独居老人 足腰立たぬ

この地球の テロ・殺戮を 見守れる
 かの残月よ 目覚めの朝 (動乱と慟哭と)

和知光儀 (府中支部)

間断なく 編隊組みて 飛来する
 米機眺めつ 防空壕にいる

部屋灯に 黒布かぶせ 母の元
 敵機過ぐるを 息殺し待つ

サイレンの 激しく鳴りて 母はまた
 子らを率いて 防空壕に入る

田中弘志 (中野支部)

作品募集

短歌・俳句・川柳 (ひとり三首まで)・コント (百字程度) 等を葉書でお寄せください。

送り先
 〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-3
 日公連ビル5F
 東京都退職校長会
 会報部

～新年懇親会のお知らせ～

日時 平成28年1月29日(金)
 13時より
 会場 スクワール麴町
 会費 7,000円

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

**ご法事、
葬儀後の
お手続き**

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
 年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎0120-849544 をご利用ください。

株式会社 **東京都民互助会** 東京都民互助会 検索
 http://www.tomin-gojyo.co.jp

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成27年10月11日届出現在)

| 物故者 | | | | | | | | | | | | | | 謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます | | | |
|-------|---------|------|----|----|-----|-------|---------|-------|----|-----|-----|-------|---------|----------------------------|----|----|-----|
| 氏名 | 年月日 | 支部名 | 校種 | 年齢 | 頁 | 氏名 | 年月日 | 支部名 | 校種 | 年齢 | 頁 | 氏名 | 年月日 | 支部名 | 校種 | 年齢 | 頁 |
| 堀 静雄 | 27.7.23 | 山梨高 | 小 | 75 | 143 | 山崎 俊彦 | 27.9.11 | 江戸川小 | 小 | 83 | 54 | 綾部 仁喜 | 27.1.10 | 八王子中 | 中 | 85 | 56 |
| 伊藤 顕 | 27.7.15 | 練馬小 | 小 | 92 | 45 | 青柳 修治 | 27.9.8 | 神奈川中 | 中 | 73 | 137 | 渡部 芳光 | 27.7.13 | 千葉西中 | 中 | 87 | 116 |
| 渡部 芳光 | 27.7.13 | 千葉西中 | 中 | 87 | 116 | 野村 正彦 | 27.8.30 | 神奈川小 | 小 | 99 | 134 | 實田 穰 | 27.7.12 | 神奈川小 | 小 | 90 | 86 |
| 實田 穰 | 27.7.12 | 神奈川小 | 小 | 90 | 86 | 後藤 敏子 | 27.8.30 | 北多摩中 | 小 | 86 | 86 | 荻島 昇 | 27.7.11 | 西多摩小 | 小 | 82 | 47 |
| 荻島 昇 | 27.7.11 | 西多摩小 | 小 | 82 | 47 | 辰嶋 幸夫 | 27.8.26 | 豊島中 | 中 | 81 | 31 | 高木 藤男 | 27.7.3 | 西多摩小 | 小 | 88 | 103 |
| 高木 藤男 | 27.7.3 | 西多摩小 | 小 | 88 | 103 | 長澤 英男 | 27.8.27 | 目黒小 | 小 | 97 | 10 | 前田 昭利 | 27.6.18 | 千葉西小 | 小 | 82 | 118 |
| 前田 昭利 | 27.6.18 | 千葉西小 | 小 | 82 | 118 | 大野 初枝 | 27.8.20 | 新宿小 | 小 | 94 | 2 | 對馬 英夫 | 27.6.6 | 埼玉小 | 小 | 85 | 130 |
| 對馬 英夫 | 27.6.6 | 埼玉小 | 小 | 85 | 130 | 園田 勝也 | 27.8.19 | 北多摩北中 | 中 | 90 | 76 | 小川 幸男 | 27.6.4 | 豊島高 | 高 | 85 | 31 |
| 小川 幸男 | 27.6.4 | 豊島高 | 高 | 85 | 31 | 池田 正雄 | 27.8.18 | 八王子小 | 小 | 93 | 58 | 藤ヶ谷敏明 | 27.5.26 | 江東中 | 中 | 85 | 7 |
| 藤ヶ谷敏明 | 27.5.26 | 江東中 | 中 | 85 | 7 | 渡邊 欽一 | 27.8.13 | 練馬小 | 小 | 85 | 42 | 飯森 雅文 | 27.5.7 | 北多摩中 | 小 | 89 | 84 |
| 飯森 雅文 | 27.5.7 | 北多摩中 | 小 | 89 | 84 | 手塚 政次 | 27.8.12 | 北多摩中 | 中 | 84 | 84 | 照屋 邦三 | 27.5.7 | 練馬小 | 小 | 94 | 43 |
| 照屋 邦三 | 27.5.7 | 練馬小 | 小 | 94 | 43 | 上田 幸夫 | 27.8.10 | 目黒小 | 小 | 85 | 11 | 三矢 功雄 | 27.4.25 | 千葉西中 | 中 | 78 | 117 |
| 三矢 功雄 | 27.4.25 | 千葉西中 | 中 | 78 | 117 | 森山 良枝 | 27.8.6 | 杉並小 | 小 | 100 | 30 | 綾部 仁喜 | 27.1.10 | 八王子中 | 中 | 85 | 56 |
| 綾部 仁喜 | 27.1.10 | 八王子中 | 中 | 85 | 56 | 小町 寛 | 27.8.6 | 西多摩小 | 小 | 79 | 102 | 氏名 | 年月日 | 支部名 | 校種 | 年齢 | 頁 |
| 氏名 | 年月日 | 支部名 | 校種 | 年齢 | 頁 | 長谷川茂雄 | 27.8.2 | 中野小 | 小 | 90 | 24 | 竹ノ内員子 | 27.7.30 | 練馬小 | 小 | 89 | 42 |
| 竹ノ内員子 | 27.7.30 | 練馬小 | 小 | 89 | 42 | 中田 初男 | 27.7.23 | 埼玉小 | 小 | 92 | 126 | 中田 初男 | 27.7.23 | 埼玉小 | 小 | 92 | 126 |

編集後記

本年度の日本人のノーベル賞受賞者は二名、医学生理学賞に山梨大出身で現在北里大の大村智特別荣誉教授が、物理学賞に埼玉大出身で現在東大宇宙線研究所の梶田隆章所長が受賞した。いずれも旧帝大でない国立大の出身という点が特徴である。

地道な努力を続けて実績を積み上げられた点も素晴らしい、日本人としての誇りである。この業績を、各学校では子供達の意欲の喚起、向上を図るための糧とされることを願っている。

さて、本会報記事にあるように本年度「業務改善・基金検討委員会」が発足した。経済的なありようを含めて、本会の業務の改善の検討をしていくので、ご意見等をお聞かせいただければと思っている。

「応募欄」に投稿して下さい。会員が増え、うれしい限りである。益々の投稿を期待するものである。(和田 弘)